

公益財団法人
庭野平和財団
助成担当 様

2016. 9. 30
NPO平和のための
戦争メモリアルセンター設立準備会
理事 河原忠弘

平成28年度前期 助成事業活動終了報告書提出の件

前略、日頃は大変お世話になって居ます。有難うございます。
標記報告書一式をお届けします。
ご査収の上、宜しくお取り計らい下さるよう、お願い申し上げます。

記

- | | |
|--------------------|-----|
| 1. 終了報告書〈含む、会計報告書〉 | 1 通 |
| 2. 写真・新聞記事〈全4葉〉 | 1 通 |
| 3. チラシ「私の八月十五日展」 | 1 枚 |

以上

庭野平和財団 平成28年度前期 助成事業活動終了報告書

コード番号 16-A-045

平成28年9月30日

団 体 名：非営利活動法人平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会
〈運営施設：戦争と平和の資料館 “ピースあいち”〉

代 表 者：理事長 森 嶋 昭 夫



報告責任者：理 事 河 原 忠 弘

連絡先〈自宅〉〒466-0844 名古屋市昭和区荒田町4丁目23番地
☎052-842-8018

実施報告書：

1. 事業の名称

私の八月十五日展 マンガ家・戦争体験者—あの日の記憶を
開催する事業

2. 事業の概要

昨年〈平成27年〉は「戦後70年」に因む多くの催しが、全国で行われました。しかしその後はそうしたことも少なくなっています。

敗戦という歴史の屈折点に立ちあい、その後苦難を経験した人々はご高齢になりました。「あの日」を伝えることが、ますます難しくなっています。

そこで“ピースあいち”では、この度「私の八月十五日展 マンガ家・戦争体験者—あの日の記憶」を開催しました。ちばてつや氏、森田拳次氏、赤塚不二夫氏がつくり、やなせたかし氏、水木しげる氏などが参加している「私の八月十五日の会」の漫画と海老名香葉子さんなどの著名人の話をマンガ化した作品、それに名古屋の一般市民の作品も加えて、一堂に展示しました。老若男女を問わず多くの市民に、忘れかけている戦争の実相に触れ、今後、平和をどのように守っていくかを考える材料を提供しました。

マンガがもつ率直な表現、親しみやすさ、温かさに惹き込まれ、戦争のおどろおどろしさ、危うさを感じていただきました。

参観者は、予定より約5割増となりました。参観者が家族や友人に感想や思いを話し、若者はツイッターで拡散してくれるなど、これまでにない動きがあった結果と推量します。

3. 事業の目的

参観者が、戦争体験者が描いた「八月十五日」の漫画から、平和の尊さと戦争の惨めさを感じ、危うさを増している今日の状況を、家族や友人と語り合い、将来に平和を繋ぐ思いを強め、共有していただくことが最終の目的です。ややもすると、戦争は軍隊〈自衛隊〉がすることで、一般市民の日常とは関係ないとの誤った認識が生まれがちです。そこで、先の戦争では兵士だけではなく、国家総動員で国民は集められ、是非を問うこともできず殺戮の場に立たされた事実を、漫画に証明してもらうことも目的でした。

4. 事業活動の具体的目標と実績

	【目標値】	【実績値】
1) 展示参観者数		
7月19日から8月31日まで		
大人〈大学生・成人〉	900人	1,515人
小人(高校生以下)	600人	693人
計	1,500人	2,208人
2) 講演会参加者数	60人	74人
3) マスコミ取材・報道		
7月中旬(開催告知)	新聞 2紙	(下旬) 3紙
	TV 2局	2局
8月中旬(終戦記念日関連)	新聞 2紙	1紙
	TV 2局	2局

5. 活動の内容

1) 展示開催

- ① マンガパネル借用、 3月10日「私の八月十五日の会」〈東京〉
を訪問、借用・講師派遣 を要請

借用作品作家等の名：赤塚不二夫、浅野重之、泉昭二、井上のぼる、今村洋子、永六輔、海老名香
葉子、小野耕世、加藤多一、神沢利子、工藤恒美、黒柳徹子、早乙女勝元、坂井せいごう、サト
ウサンペイ、里中満智子、さわたりしょうじ、杉下茂、高倉健、多田ヒロシ、ちばてつや、出川
三男、永田竹丸、那須正幹、古谷三敏、牧美也子、牧野圭一、町田典子、松本零士、水木しげる、
水野英子、森田拳次、モロズミ勝、やなせたかし、山田洋次、山根青鬼、渡辺正子

- ② 名古屋市民からの募集

「私の八月十五日」募集 応募作品点数 16点

- ③ 開館体制強化

日曜日は通常休館のところ臨時開館し 総開館日を 38日確保

2) 講演会開催

- ① 月日 7月31日
② 会場 “ピースあいち” 1階フロア
③ 演題 「私とマンガ家たちの八月十五日」
④ 講師 (財)日本漫画事務局八月十五日の会代表理事 森田拳次氏

6. 写真 末尾に添付

7. 新聞 末尾に添付

8. 実施スケジュール

計画段階	2015年12月	プロジェクト・チーム立ち上げ
	2016年 1月～	展示構想練り上げ 借用品の選定、借用条件折衝
準備段階	2016年 1月～	“ピースあいち”が一般市民から 文・絵「私の八月十五日」を募集
	2016年 5月	マンガ・パネルの借用契約調印
実施段階	2016年7月19日～8月31日	「私の八月十五日展」開催
	7月31日	講演会開催
終了	2016年9月30日	報告書作成、プロジェクト解散

9. 平成 28 (2016) 年 1 月 1 日～9 月 30 日会計報告書

被助成者：特定非営利活動法人

平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会



コード番号 16-A-045

【収入の部】

単位：円

項 目	予算額	決算額	備考
1. 助成金	340,000	340,000	
2. 参観料収入	300,000	372,300	大人 1,515 人、小人 693 人
3. その他	115,600	44,279	準備会拠出金
合計	755,600	756,579	

【支出の部】

単位：円

項 目	予算額	決算額	内訳・備考
1. 人件費			
協力者謝金	50,000	22,274	講師謝礼
補助者謝金	0	0	
2. 旅費			
国 内	120,000	83,600	講師旅費・出張旅費
国 外	0	0	
3. 通信費	0	9,000	
4. 会議費	0	0	
5. 資料費	345,600	345,600	パネル借料、助成金充当
6. 印刷費	200,000	245,064	チラシ 40,000 枚、ポスター他
7. 什器備品費	10,000	3,483	
8. 消耗備品費	10,000	35,542	自前印刷用材料他
9. 研究開発費	0	0	
10. 雑費	20,000	12,016	
合計	755,600	756,579	

以上

あの日、青い空の下で...

〔特別企画〕

私の八月十五日展

マンガ家・戦争体験者 — あの日の記憶



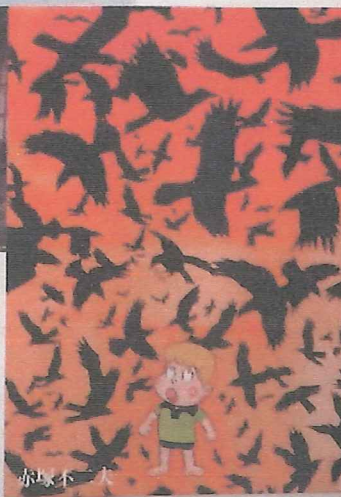
水木しげる



高倉健（絵・ちばてつや）



わたなべまさこ



赤坂小

この事業は
公益財団法人 庭野平和財団 から
助成を受けています。

①展示会場入口のカンバン 〈右下に“庭野平和財団から助成”の表示あり〉



②オープニング・マスコミ取材状況



③展示（漫画家の一部）



④参観風景



⑤展示（漫画家の一部）



⑥市民応募作品



⑦森田孝次氏講演会風景

漫画家 俳優の8月15日



赤塚さんの作品 (左) をみる野間さん

漫画家や俳優らの証言と絵による「私の8月15日展」が名古屋市長東区のピースあいちで開かれている。南太平洋の激戦地ツバウルで玉砕

水木しげるさんの絵と証言 館末まで

す前に終戦を聞き、「助かった」と安心した後、の漫画家水木しげるさんから著名人の回想と絵計37枚などが展示されている。8月31日まで。

旧満州から引き揚げた漫画家のおぼこやさん、赤塚不二夫さんらが約20年前、絵と文章をまとめ、展示したのが始まり。全国巡回しているが、同市開催は初めて。

赤塚さんの絵は、真っ赤な空に黒いカラスが群舞する。あの日、満州の少年が見た不安な光景だ。永六輔さんは東京出身の小学生。終戦翌日、教師が「『神の国だから負けない』と教えたのは間違っていた」と土下座し、「切腹する」と口にした。その時、子どもたちは教室の掃除当番を増やす相談までした。一方で「スカートがはける」と言った女性の回想も。

ピースあいち館長の野間美喜子さん(77)は「戦後民主主義が確立されたからこそ、原点のあの日を振り返りたい」と話す。入場料大人500円、小中学生200円。7月31日午後1時半から、漫画家の森田孝次さんの講演会。参加費大人500円、小中学生200円。

漫画で描く戦争体験

戦争を体験した漫画 木しげるさんは、出征家が当時の記憶を漫画 先のバナーニューズで描いたパネル作品展 ア・ツバウルの森で「私の8月15日 飲まず食わずで敵の攻展」が、名東区よもぎ 撃から逃れる様子や、台二の戦争と平和の資 「ガラスの城」などの料館とースあいちで開 著作があるわたなべまかれている。8月31日(本名・渡辺雅一日まで) 子)さん、皇毛玉七点。「ひびきの唄太 「これでスカートがは郎」で知られる故・水 りる」と言った記憶を



戦争体験を振り返った漫画家の作品が並ぶ会場＝名東区よもぎ台2で

ピースあいち 故 水木さんらの作品展示

それぞれ一枚の絵にした。 今月亡くなったあしたの永六輔さんが、終戦翌日に学校の教室で先生から土下座と謝られた場面を岐阜県出身のクミタ・リエウ(本名・波田隆彦)さんが描くなど漫画家以外の体験を描いた作品もある。 同じ名前の展示会が二〇〇三年、漫画家の森田孝次さんの呼び掛けで東京で始まり、名古屋での展示は初めて。野間美喜子館長は「8月15日に立ち返り、国民が何を思ったのか振り返りたい」と話している。7月31日午後一時半からは、ピースあいちで森田さんの講演がある。 入場料は、大人五百円、小中学生と高校生二百円。日曜休館。 ①ピースあいち＝052(602)42222 (市川泰之)

著名人が文章や絵画で表現

私の八月十五日展 名古屋

敗戦を迎えた1945年8月15日の記憶を、各界の著名人が文章と絵画で表現した「私の八月十五日展」が、名古屋市名東区よもぎ台の「こーすあいち」で好評だ。

東京の市民団体「八月十五日の会」が呼び掛け、賛同者に作品を

描いてもらい、2002年に都内で公開が始まった。こーすあいちによる、名古屋市内で本格的な展示をするのは初めてという。

今回は、やなせたかしさんや水木しげるさん、永六輔さんの37作品と、県内の市民に応募してもらった16作品を展示した。満州(現



作品に記入する入場券。名古屋市名東区「こーすあいち」

やなせたかしさんや水木しげるさんら37作品

・中国東北部)で敗戦を迎えた漫画家の赤塚不二夫さんは、当時10歳。その日の夕焼けを「満州の空は、真っ赤に燃えていた」と表現し、赤く染まった空と無数に飛び交うカラスの中で、不安そうな自分の姿を描いた。

当時、福岡県にいた俳優の高倉健さんは、玉音放送を聞く大人たちの何人かが泣いていた。僕には、何を云ってるんだか聞き取れなかったと記し、うなだれて玉音放送を聞く大人たちと、不安げにのぞき込む子供たちの姿を、漫画家のちばてつやさんが描いた。高倉さんはその日を「その後何度となく味わった、人生が変わる一瞬。道行無常」などうつった。

8月31日までの午前11時から午後4時(最終日は午後3時)。月曜日休館。入場料は大人500円、小中高生200円。問い合わせは、こーすあいち(052・602・4222)。

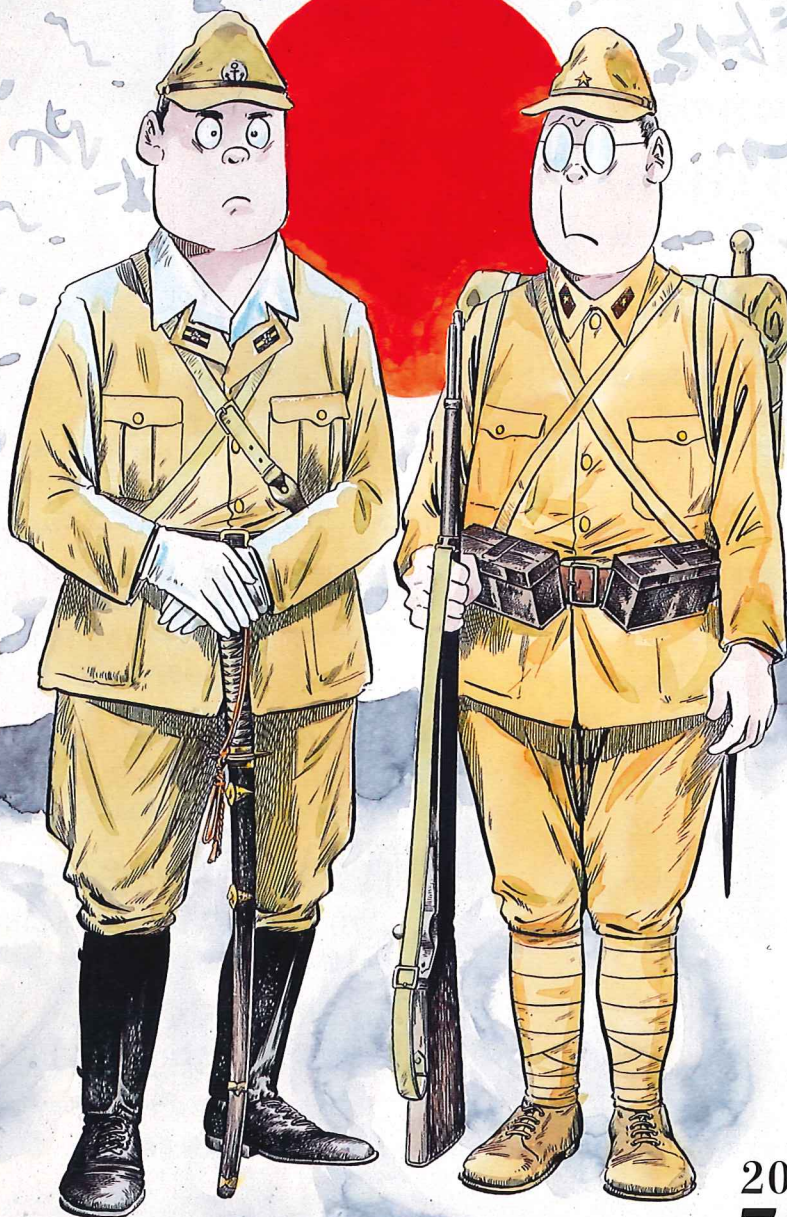
【月見寛樹】

あの日、青い空の下で...

【特 別 企 画】

私の八月十五日展

マンガ家・戦争体験者 — あの日、の記憶



2016年
7月19日(火) —
8月31日(水)

〈展示作家名〉

赤塚不二夫
浅野重之
(絵・ウノ・カマキリ)
泉昭二
井上のぼる
今村洋子
永六輔
(絵・クミタ・リュウ)
海老名香葉子
(絵・千葉督太郎)
小野耕世
加藤多一
神沢利子
工藤恒美
黒柳徹子
(絵・牧美也子)
早乙女勝元
(絵・早乙女民)
坂井せいごう
サトウサンペイ
里中満智子
さわたりしょうじ
杉下茂
(絵・クミタ・リュウ)
高倉健
(絵・ちばてつや)
多田ヒロシ
ちばてつや
出川三男
永田竹丸
那須正幹
(絵・黒田征太郎)
古谷三敏
牧美也子
牧野圭一
町田典子
(絵・森田拳次)
松本零士
水木しげる
水野英子
森田拳次
モロズミ勝
やなせたかし
山田洋次
(絵・森田拳次)
山根青鬼
渡辺正子

水木しげる (漫画家 パプアニューギニア・ラバウルで 23歳) 「助かった」

開館時間 | 11:00~16:00
(最終日は15:00まで)

休 館 日 | 月曜日 (会期中は日曜日も開館)

入 場 料 | 大人500円 小中高生200円
※入館料 大人300円 小中高生100円を含みます

【博物館相当施設】
戦争! 平和の資料館 ピースあいち
〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台 2-820
TEL&FAX 052-602-4222

関連
イベント

講演会「私とマンガ家たちの八月十五日」

7月31日(日) 13:30~ 1階 交流のひろば

- ◆お話／漫画家 森田 拳次 さん (代表作・丸出だめ夫など。
「(財)日本漫画事務局八月十五日の会」代表理事)
- ◆参加費／大人500円 小中高生200円 ※別に入館料が必要です
- ◆予約TEL／052-602-4222



当日利用したドニチエコきっぷ
などの一日乗車券を提示する
だけで、名古屋市内の施設・
飲食店などで割引などの特典
が受けられます!
※詳細は地下鉄駅で配布している
特典ガイドブック「なごや得ナビ」をご覧ください。

おかげさまでドニチエコきっぷは発売10周年

ドニチエコきっぷ・一日乗車券を利用してご来館の方は、
50円割引! [大人] 500円→**450円** [小中高生] 200円→**150円**

※「ドニチエコきっぷ」「一日乗車券」は、ゆとりーとライン(高架区間)、名鉄バス、あおなみ線、リニモでは利用できません。



(管理 7/25~8/24)